

私たちは闘い、働く

あらゆる権利のために



「戦後の総決算」が
叫ばれた85年。それは
また私たちにとても
一つの総決算の年であ
った。高度成長が終つた
と言われているから、す
でに数年。その間、わ
が国の支配階級は、海
外市場に活路をみい出
し、あたかも、この体
制が永遠に続くかのよ
うな幻想を人々に与え
続けてきました。

私たち編集部は、昨
年、同意を求めるので
はなく、共感を呼びお
こすこと、を目標に努
力してきました。多く
の人々から励ましや、
支持の声が寄せられた
反面、つま
らない、ど
こにでも書
いてある事
ばかり、等
の厳しい批
判も寄せら
れました。

新年を迎えて

人民新聞 編集部

うな批判が当然である
ことを認めざるを得ま
せん。私たちもまた、
従来の考え方を克服す
ることができず、世の
中で急速に変化し、そ
の生活や意識の変化を
充分にとらえ切れてい
なかったことが、この
ような批判を生んだ大
きな原因だと考えてい
ます。この一年、より
多くの人々に学びつつ、
共感を呼びおこす紙面
づくりをめざして、一
層努力する決意です。

一九八六年一月
人民新聞編集部

昔、「人民新聞」が「新左翼」であった頃、1面下
段のコラム欄の名称は「火焔ペン」だった。「火焔
ペン」は悪口をたたかれないながらもよくよまれたコラム
だった。なかでも、ペンネーム「老」氏のコラムは
辛辣で鋭く、具体的によく議論をよんだものだった。
今でも思い出す一つに「養殖ハマチ」を当時の高度
成長期に育った若者にたとえたコラムがある。瀬戸
内海に発生した赤潮によって、大量の養殖ハマチが
死んだ事件をとらえて、出世魚のハマチが困いの中
でエサを与えられ、ブクブクと太っている姿と若者
とをダブらせ、痛烈にたたいた名作だった。そして、
たしかそのコラムは「赤潮に襲われた養殖ハマチは
網をくい破り、広い大海に出て逞しく成長するだろ
うか」と結ばれていた。あれから一〇年すぎた。時
代は大きく変化し、体制の危機は深く進行しつつあ
る。高度成長が日本社会にもたらした変化の量と質
をとらえきれない新旧左翼の動揺と崩壊は、増々、
顕著なものとなってきた。日共第一七回大会での綱
領改正。社会党大会での「新宣言」をめぐる醜態。
中核派によるひとりよがりの国鉄妨害ゲリラ闘争。
どれをみても相当ピントのボケた、人民不在のつじ
つまあわせといわざるをえない。時代を予見する鋭
い目と、大衆と共に社会変革を担う熱い情熱によつ
て、その存在価値をみとめられていた左翼の面かげ
は、そこには全くない。そんな厳しい状
況の中で、網を食い破り、大海に泳ぎ出
した養殖ハマチは逞しく成長しただろう
か、と自問する年の瀬です。(M)

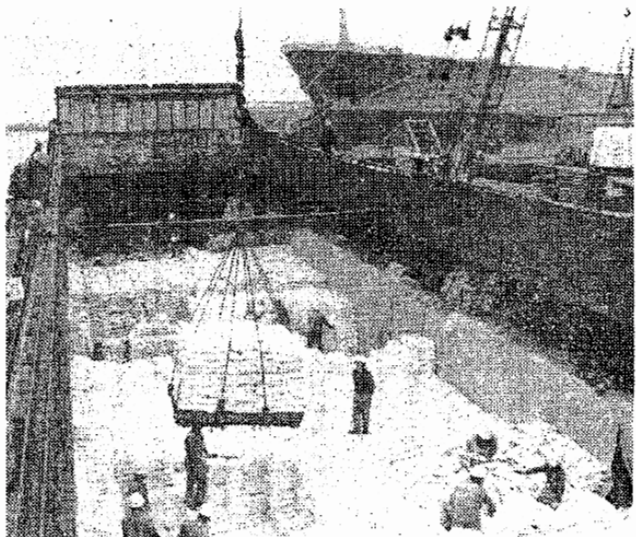
一年を振り返ってみると、何とも騒々
しい年だったと思う。大事件が次から次
に起きた。しかも後味の悪い事件が多か
った。豊田商事、農薬入り缶ジュース、そして今、
大阪では放火が続いている。人と人のつながりがズ
タズタに切り裂かれ、その裂け目につけ入るように
してこれらの事件は発生した。被害者がさびしい人
たちなら、加害者もさびしい人たちである。しかも
加害者、被害者ともに不特定多数の誰かであり、両
者に何らのつながりもない。▼事件そのものに対して
やりきれないのではない。これらの事件を生み出す
ような土壌があること、つまり、人間ひとりひとり
がバラバラにされていることの方がやりきれない。
誰もが「いやな世の中になったんだ」とつぶや
いている。▼だからこそ、誰もが、人と人のつながりに
飢え、それを求めている。皮肉なこと、缶ジュース
に農薬を入れるのも、他人の家に火をつけるのも
人とのつながりを求めているからだろう。▼運動とい
うものは労働運動にしても住民運動にしても、本来
は、断ちきられたつながりを回復させようとするも
のではなかったのか。既成の運動はその事を忘れて
しまったように見える。運動の場でも人々はバラバ
ラに切り裂かれ、機能と役割だけを求められている
▼だが一方で、職場でも町でも、人と人のつながり
を回復させようとする努力が続けられている。職場
の野球チームや町の共同購入グループなど。運動の
原点をもういちど心に銘記したい。(K)

納得できる闘争じゃないと

署名に出てみると、確かにガンガン言われることもあるにはあるけど、実際には七割位の人が応じてくれて、中にはお茶出してくれるところまであつて(笑笑)、そういう意味ではよかったんじゃないかと思う。

藤田　でもうちの職場でもポイントが合えばワ

(3面上段へつづく)



高島喜久男

打倒 死刑制度に
ガンバロー
秋好英明
飯田多
あけまして
今年はい
休日を
事件と自
なおに

資本論における単純商品の意義
——小倉利丸「支配の経済学」を読む
吉本はどこまでイリッパの
詐欺にひっつかかったか
山崎カヲル
田川建三
11月15日発売・800円

ただひとつの拳のぶとく
第一の敵上映委員会編 ウカマウ集団シナリオ集②
表題作と「コンドルの血」「人民の勇氣」のシナリオに、
池田浩士、松田政男、船戸与一、ホルヘ・サンヒネス、
ロケタルトらの論考を付す12月7日刊予価9500円
好評発売中9500円

第一の敵
シナリオ集団①
ウカマウ集団
第一の敵上映委員会編
ラテンアメリカの人民闘争の、つの媒介物として映画を撮り続けるウカマウの代表シナリオ集。資料、写真多数。ウカマウ「第の敵」二から出ていけ、

インパクト出版会
東京都文京区本郷2-18-5
発売元・イザラ書房
振替東京183-48

たか

1 高麗(朝鮮)の王様

高麗(朝鮮)の王様



ニユーヨーク8/オハイオ8/ベルティエ/ロドリゲス
/バンクーバー/西ドイツ赤軍/赤い旅団

新地平

(八四年、各号特集)

1 職場における安全と健康を

2 アジア情勢と朝鮮半島

3 いま中・高年問題を考えろ

4 内政する危機にあえぐ日本共産党

5 法制度の全面改悪と労働者の生活と闘い

6 臨教審を粉砕し教育をわれわれの手に

7 防災訓練と「危機管理」

8 狭山闘争と部落解放運動の現局面

9 秩父峰原水禁運動の再生の道

10 秩父峰百年——民衆の闘い

11 地域労働運動の可能性をさぐる

12 (八五年、各号特集)

1 現代の若者——侃々諤々

2 反撃に転ずる海外労働運動

3 ニー社会党路線を検証する

4 指紋押なつた否か

5 労働者派遣法がねらうもの

6 総特集——日韓条約20年を問う

7 労働者自身の学習教育運動

8 戦後四〇年——平和と民主主義のはてに

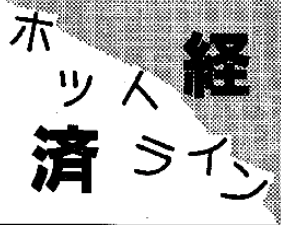
9 国鉄闘争——反撃のスクラムをとる

10 総特集——女性解放の、まをすて……

新地平社 定期購読／半年分4800円・1年分9600円(送料当方負担)

なにが反権力なのか?

自治体労働者 F・Y
過去二カ月前、貴紙を送っていただきましたが、実は購読すべきか否か迷っていました。貴紙の内容はまさに「人民」新聞にふさわしい。反天皇制、ニカラグアなどの国内・国際の人民・プロレタリア



民活の二つの背景

昨今の民活論議は、社会資本の整備といった公共事業分野に民間の活力(資金やアイデア)を導入しようというものです。これには、二つの背景が秘められています。まず第一に、石油ショック以後の長期不況(政府・財界はこれを低成長と呼んでいますが)を開拓するための赤字国債発行・国内需要拡大という財政政策が行き詰まってきたことへの代替案であるという事です。つまり、野放図な国債発行によって生じた巨額な国債残高による財政危機とインフレーションの回避の必要性に直面した政府が、もうこれ以上カネを使わないようにしようと考えはじめたこと(行方路線)です。つぎに二番目の背景は、低迷する国内需要のなかでウロウロする企業(民間)に新たな投資先を用意するという事です。

ねば、暗黒の侵略戦争に突入してしまおう。その意味で、20年間にわたり実力闘争で不当な農地強奪、軍事空爆に反対し続けている三里塚闘争に熱い連帯の意思を込めて、カンパ、署名運動に協力してきましょう。その意味で闘いに分裂をもちたらず熱田派の動きに残念でなりません。貴紙も公平な立場で、なにが反

権力で、なにが脱落なのか、正しく掲載してほしい。か、夏、秋と過ぎては年暮れ。日韓問題に関心のある者にとって「韓国短信」や「情報ひろば」などに大事な情報を見出し、活動の糧にしています。(大阪 N・S)

年末カンパの訴えに、貧者の一灯で心持ちだけでも応えねばと、ほんの気持ちだけでかありませうが(これっぽっちとおこられる?)ご査収下さい。今号一面、吉沢さんのハントの訴え、大きく、(大阪 M・T)

とても効果的に扱われていて、彼の誠実さ、必死さがひしひしと響いてくる。に伝わってくるものでした。年々カンパの訴えに、貧者の一灯で心持ちだけでも応えねばと、ほんの気持ちだけでかありませうが(これっぽっちとおこられる?)ご査収下さい。今号一面、吉沢さんのハントの訴え、大きく、(大阪 M・T)

●：昨今のように「守りの闘い」に終始し、ズルズルと後退を続けている中で「権力犯罪」を暴くことは、すぐれて「攻めの闘い」であると思いませんか。ますますの御健闘を祈ります。わずかですがカンパ送ります。共に闘いましょう。(神奈川 I・K)

●：昭和の初め、私の若い頃と全く同様の世相と

営化攻撃にさらされ、崖に立つている国労組合員に勤務の合間をぬって話合ってもらいました。労働者は抑圧のあるところ、必ず群れて闘います。闘いの実体が先で名前はその後で、でしょう。労働者が初めて群れ、闘いを始めた時は、労働組合があつたから闘ったのではないと思います。労働運動の原点にかえるとい

う言葉を、言葉の遊びにあらわしている余裕はないと思います。*：したがって、連載や取材していた記事は次号にまわしました。今号にのるものと期待していた方にはすみません。「ニカラグア通信」「韓国短信」など、次号に。(W)

資本の戦略としての民活

「親方日の丸」意識よりも合理精神をもつ民間がやっただけがよいというふうな、きわめて口当たりのいい口実で強引に進められている民活路線なのですが、これは石油危機後混乱していた資本がやっとな見出した打開策なのです。つまり中曽根という首相個人の特異な個性の発露物なのではなく、低成長を国際化が進展するこれからの日本資本主義が打ち出した方向なのですから、根は相当に深いものなのです。

貿易摩擦問題

日本の高度経済成長をひっぱってきた一大産業、鉄鋼業と自動車産業の推移を手がかりに話をします。まず鉄鋼業ですが、鉄鋼は産業の米と言われているように産業の発展に不可欠な基礎物資です。図1にみられる様に各国とも七三年を境にゼロ成長を余儀なくされてい

高まる労働者の敗訴率

日本資本主義の意向は、まず裁判所での労働事件の判決結果に表現されます。労働市場システムの展望に「密着」が流行語となったのは七一年でした。八四年の経済企画庁の「労働市場システムの展望」に関する調査によると、職能資格制度を導入する会社は九三%、昇進資格

合理化攻撃

民間でこのように厳しい状況は、政府・財界にとっても、治安対策上由々しい事態です。由々しい重大な事態だからといって、これをやめるわけにはいかない彼らが考え

公共労働者への攻撃

民間労働者への合理化攻撃を容易にするために、また財政危機を克服しなければならぬ政府にとっても、まさにこれは一石二鳥の方針でした。

民活路線下の日本経済

一〇人に一人はなんらかの形で関係していると言われる自動車産業をみてみます。表1が示すように、自動車産業の成長率は七〇年代には低減した

低開国国策

七三年の石油ショックは、戦後世界経済体制がいかに先進国のためのものであったかを告発する第三世界の挑戦の開始でした。基本エネルギーの石油を保有国の利害は

日本資本主義の国内対策

後進国を標的にする一方で、同時に日本国内の再編成も日本資本主義の

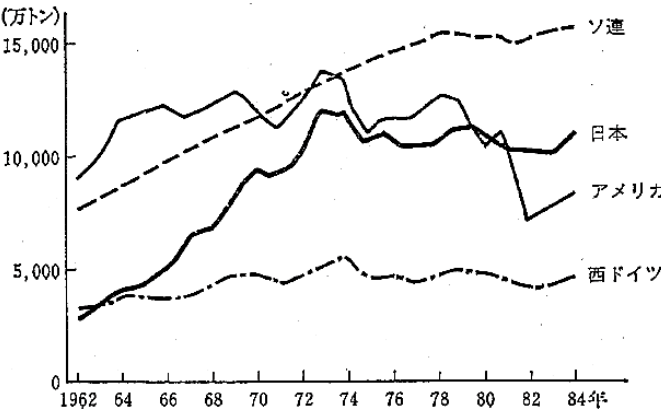
合理化攻撃

民間でこのように厳しい状況は、政府・財界にとっても、治安対策上由々しい事態です。由々しい重大な事態だからといって、これをやめるわけにはいかない彼らが考え

公共労働者への攻撃

民間労働者への合理化攻撃を容易にするために、また財政危機を克服しなければならぬ政府にとっても、まさにこれは一石二鳥の方針でした。

図1 主要国の粗鋼生産高の推移



出所：国連統計年鑑、鉄鋼統計委員会「鉄鋼統計要覧」。

表1 日本の自動車産業の生産の推移

	1960年	1970年	1980年	1984年
生産	760千台	5,303千台	11,043千台	11,465千台
乗用車	165	3,179	7,038	7,073
トラック	308	2,064	3,913	4,320
バス	8	47	92	72
三輪トラック	278	14	—	—
輸出	50	1,094	5,967	6,109
輸入	4	20	48	45

出所：日本自動車工業会資料
